

護の理念には、古い道徳の匂いも強いが、現在も学ぶべき多くのものも含まれている。

(精神科医療史研究会)

帝国大学医学部薬学科の発展

中 室 嘉 祐

奈良時代中国大陸から漢方医学が伝来し、和漢薬とその製剤を用いる漢方医学が徳川末期まで続いた。鎖国となる
と長崎の和蘭商館の医官を通じて和蘭医学が伝わり、とくにポンペの努力により、文久元年、日本最初の洋式病院長崎養生所が開院し、彼は日本各地から集まった医学生に西洋医学のほか、薬室にて処方箋調剤をも教えた。後任のポードインもポンペ同様であった。医学生は日本各地へ帰り、病院が処方箋調剤を行う医薬兼業の西洋医学・長崎式西洋医学(『日本医史学雑誌』第三五巻、一五三頁)を日本中に広めた。江戸では幕府の西洋医学所を興し、これは明治となると大学東校・東京帝国大学へと発展した。「明治となりポードインは浪華仮病院・国立医学学校病院(院長緒方惟準)へ転じ、後任のエルメリンス(院長高橋正純)の明治五年、文部省は学制改革を行い大阪を廃校とした」。

明治四年、政府は、大学東校へドイツ軍医ミューラー少佐（外科）、ホフマン少尉（内科）を雇用した。西洋医学の医薬品はほとんどが化学薬品で、当時の日本人の無知から偽造・不純薬品が横行し、ミューラーらの進言で明治六年、第一

大学区医学校に製薬教室が開設、のち十三年、医学部に製薬学科が併設されたが、その後入学生が急減し、文部省は明治十九年の学制大改革で廃校と決定した。これを聞いた丹波藤吉郎助教授は森有礼文相に直訴して、日本に薬学

教育の必要を懇願した。明治十九年、東京大学は帝国大学となり、医科大学に薬学科が併設された。日本最初の帝国大学医学部薬学科である。明治三十年、帝国大学を東京帝国大学と改称して、京都帝国大学が設置され、三十二年、医科大学が開設された。明治三十六年、福岡に京都帝国大学福岡医科大学を開設、これは四十一年、九州帝国大学となった。仙台には札幌農学校分校があつたが、明治四十年、

東北帝国大学が創設、大正四年、医科大学が設置された。

大正七年札幌農学校は北海道帝国大学となり、八年医科大学が設置された。昭和六年大阪府立医科大学は大阪帝国大学となり、昭和十四年名古屋帝国大学医学部が設立された。

帝国大学には必ず医学部が設置され、医学部には附属病院など完全な設備があつた。

昭和十四年京都帝大の旧医化学教室などを利用して医学部に薬学科が併設された。終戦まで東京・京都帝大両薬学科では植物成分・精密有機化学の多数の研究と薬学教育者・薬学研究者の育成が行われた。他の官公私立の薬学教育はすべて薬学専門学校で、薬剤師教育が主たる目的であつた。

終戦となりGHQの軍政となると、アメリカ教育使節団、医学使節団、薬学使節団の来日、報告書があり、薬学教育は国公私立すべて四年制となり講座の拡充が始まり、薬理学、生化学、衛生化学、生物薬学、薬剤学等新しい講座が加わり、新制四年の薬科大学が発足した。

旧帝国大学では、大学内の建物等を利用して医学部に薬学科の併設が行われた。すなわち①東京―明治二十年、②京都―昭和十四年、③九州―二十五年、④北海道―二十九年、⑤大阪―昭和二十九年にそれぞれ医学部に薬学科が併設された。

なお大阪大学は新制大学発足に際し、今村荒男学長は、

同大学泉尾診療所に医学部薬学科か、医学部歯学科の新設を強く望んでいた。当時豊中市の私立大阪薬学専門学校（昭和五年大槻式校長は豊中に土地一万坪を求め、三階建等校舎群を新築し、大阪より移転）は独自で大阪薬科大学へ昇格を企画していたが、昭和二十三年七月、大阪大学と大阪薬学専門学校両主脳の会談により、大阪薬学専門学校土地（運動場・薬草園とも）建物・図書・実験設備のすべてを無償で大阪大学へ寄付する内約を定め、同校は昭和二十四年大阪大学附属薬学専門部となり、在校生徒の卒業とともに、大阪大学医学部薬学科として発足した。

新制の薬学では講座数が急増するなど、旧帝大でも医学部薬学科から分離独立して薬学部へと発展していった。すなわち①大阪大学―昭和三十年、②東京大学―昭和三十二年、③京都大学―昭和三十五年、④九州大学―昭和三十九年、⑤北海道大学―昭和四十年にそれぞれ旧帝大医学部薬学科から独立して薬学部となった。

大阪大学の五〇年史や同大学村上信三初代薬学部長、第二代川崎近太郎薬学部長の記述によると「今村荒男総長や医学部教授会が薬学科を薬学部独立させる構想をもち、

毎年要求を続けてきた。それが結実し、昭和三十年七月一日法律第四四号によって医学部より薬学科を分離し、薬学部が開設されることになった。これは旧帝大系では最初の誕生である。文部省の意向としては東京大学がまず薬学部を創設し、京都大学、大阪大学の順を追って独立させることであったが、他に先がけて薬学部設置が認められた」とあるが、真意が記されていない。すなわち日本の帝大薬学科はすべて学内の建物を利用して設立されたが、大阪大学薬学科だけが、旧大阪薬学専門学校の広大な土地建物を独自でもっていたからである。昭和五十年、大阪大学は旧大阪薬専の土地建物を大阪府に売却し、万博跡地に六階建薬学部を新築移転した。

なお大阪大学泉尾診療所を出願の拠点として、医学部歯学科が認可された。これは大阪大学歯学部へと発展した。旧帝大系では最初の歯学部である。

（奈良佐保女学院短期大学）